

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No.

31

2012年1月発行

**昨年はお世話になりました。
今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
今年がよい年となりますように！**

2011年は多くの災害があった一年でした。各地の被災地を訪れた方々の話を聞くと、障害児者の悲惨な状況が見えてきます。避難所に居ることができずライフライン復旧が遅れ支援物資も届かない自宅で生活をしていたり、家に籠った生活をしてきたために避難することを最初からあきらめていたり、近隣の家族の状況を知っているのに「障害者がいることを知らないことにしてきた」がために支援が難しかったり、入所施設が倒壊して避難した入所者の方々が新たな入所施設に入ることができるようにと全員まとめて狭い避難施設に閉じ込められていたり…。驚くような報告を聞き、単なる復興では、また同じことを繰り返すという危機感を持ちました。このような状況を障害当事者たちが望んでいるはずはありません。障害児者を隔離し続けてきた社会の歪みが背景にあります。今、あちこちで「絆」の重要性が言われています。そこから障害をもつ人たちが排除されることのないように、「ともに育ちともに暮らす」地域社会をつくりだして欲しいと思います。

昨年を振り返りながら、〈ほうぷ〉の理念の一つである「つながり」の大切さを改めて思いました。この8年、「出会い・つながり・夢を語ろう」を合言葉に、地域の中にさまざまなつながりをつくり、一人ひとりが大切にされる地域社会にしたいと活動をしてきました。障害者福祉や教育における制度が揺れ動き変わってきた8年でもありました。制度にとらわれないところで、地域に密着し地域の方々と協働して、いろいろな課題に対して活動してきました。10年目を前にして、初心にかえり「つながり」の大切さを思い、そして、次なる一步に向けた活動の展開について考えていきたいと思っています。

みなさま、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

つながりの中で暮らす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



「未来に向かってチャレンジ」事業

【大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」助成】

チャレンジ体験Ⅱ・しごと

(1)しごと体験

8月から12月まで、「しごと体験」の活動をしました。受け入れにご協力いただきました皆さま、サポーターの皆さま、ありがとうございました。受け入れ先の開拓が思うようにいかず反省ばかりです。生き活きと体験をする子ども達に助けられた活動でした。

【「しごと体験」受け入れ先の開拓】

- ・区内の企業7社、城東区大型店舗1店
 - ・区内の公共機関（旭区役所、旭区社会福祉協議会、旭図書館）
 - ・大阪市企業人権協議会旭支部の会議での広報
 - ・区内の老人保健施設
 - ・公園事務所（城北・鶴見緑地・扇町）
 - ・鶴見緑地公園内の乗馬苑・生き生き地球館・咲くやこの花館
- （花博記念公園事務所の職員の方が同行してくださいました）

【「しごと体験」受け入れ先】

旭区役所、旭図書館、旭区社会福祉協議会、旭区社会福祉協議会ディサービス、牧老人保健施設、扇町公園、鶴見緑地公園（乗馬苑・生き生き地球館・咲くやこの花館）

【「しごと体験」の活動】

<旭区役所> 生涯学習講座のチラシ発送の準備作業

4日間、子ども のべ8人、サポーター のべ11人

<旭図書館> 事務所内の作業（本の仕分けなど）やカウンター業務

5日間、子ども のべ5人、サポーター のべ5人

<旭区社会福祉協議会> 区社協便りの発送作業

1日、子ども 2人、サポーター2人

<旭区社会福祉協議会ディサービス> おやつ配布やレクリエーションの手伝い等

1日、子ども 2人、サポーター2人

<牧老人保健施設> おしぼりたたみの作業やレクリエーション手伝い

4日間、子ども のべ6人、サポーター のべ6人

<扇町公園> 職員さんと一緒に体操後、清掃作業や水やりの作業

2日間、子ども のべ4人、サポーター のべ6人

<鶴見緑地公園・乗馬苑> 厩舎の掃除・馬の世話・馬ひきなどの一連作業

2日間、子ども のべ2人、サポーター のべ2人

<鶴見緑地公園・生き生き地球館> チラシ配布など館内作業・畑作業（綿花摘み取り）

2日間、子ども のべ2人、サポーター のべ2人

<鶴見緑地公園・咲くやこの花館> チラシやカレンダーの配布など

4日間、子ども 4人、サポーター のべ4人

<その他> 障害児関連集会の会場受付等 2日間、子どものべ3人、サポーター3人



<受け入れ先の方々の感想から(抜粋)>

- ・ 8月から『しごと体験』として、「生涯学習だより」（毎月初旬発行・現90部）用資料のセットを手伝っていただいております。作業の日は、旭区役所1階の会議室に区や区内生涯学習施設の色とりどりのチラシ（約20種類）を準備して、皆さんの到着を待ちます。最初は、ぎこちなさがありました。回を重ねるごとに元気なあいさつをいただいています。セットは結構時間がかかり根気がいります。当初、慣れない仕事のため、また当方の資料数の確認不足のため、作業に時間を要しておりましたが、今では手順もすっかり覚え、作業もスムーズで、なおかつ点検もきっちりしていただき、非常に助かっています。2時間程度で、きちんとしたセットが山積みされ作業は終了となります。子ども達の満足そうな顔が、担当者としても喜びです。
- ・ この夏、3人の中高生が全部で5回、旭図書館に「しごと体験」に来ていただきました。実は、9月以降も学校が終わった放課後や土日にも体験を予定していましたが、調整がつかず、残念ながら実現しませんでした。障害の内容もさまざまで、どんな「しごと体験」ができるか、図書館でもいろいろ考えてみましたが、いくつかの仕事を用意して、本人に聞くのが一番でした。自分ができる仕事・やりたい仕事は、自分が一番わかっているようです。時間的に長く続けるのがしんどいようなら、他の仕事にも誘ってみました。サポーターの人も、無理にさせるようなことはなさらずに、本人の意思を聞いて、コミュニケーションをうまく保ちながら進めていました。図書館の仕事は、利用する立場では気づかない裏方の仕事がたくさんあります。そんな仕事を知ってもらうのも、収穫のひとつです。でも、「残り30分、今までやった仕事のなかで何がしたい？」と聞いたら、「カウンターの仕事」と応えた子のほうが多かったです。カウンターでは、来館した市民の方と直接応対して、貸出や返却の作業をします。職員も「来館した人にはまず、ご挨拶しましょう」と声をかけていました。「しごと体験」はコミュニケーションの体験でもあり、子どもたちもそれを望んでいるのだなあと感じました。
- ・ 鶴見緑地公園乗馬苑では、2日間という短い期間ではありましたが、貴法人による「しごと体験」の活動に参加協力させていただきました。当苑では障害をもつ方々に対しての事業として、障害者の方々を対象に曳き馬や体験乗馬、馬とのふれあい体験といった事業を行っており、当苑においてもとても良い経験になりました。当日は、乗馬クラブの仕事の体験として、厩舎（馬を飼養している建物）の掃除や馬の世話など。表に出て目立つ仕事ではありませんでしたが、クラブの業務としてとても重要な仕事の体験をしていただきました。熱心に体験に取り組んでいただいた中で、馬と触れ合いながら、一つの仕事をやりとげることの大切さ、生き物を扱う仕事の大変さなどが少しでも感じて頂けたら、私共も嬉しく思います。



<参加者の感想やアンケートから>

○子どもの感想

- ・ まきろうけんとさくやこのはな館にお仕事に行きました。おしぼりをたたむ仕事でした。そばにテレビがあって、気になったけど、仕事なので手をとめないようにがんばりました。鶴見緑地のさくやこのはな館は、仕事で行くのははじめてで、なんだかドキドキワクワクでした。ありがとうございました。
- ・ 旭図書館に働きに行きました。バーコードをしに行きました。はじめに本の整理をしました。住吉区民センターの図書館に返却する本を区別しました。上手にできてうれしかったです。上と下の段があって、高いところがあって、届かなかったので、お姉ちゃん(サポーター)に任せました。私はちょっぴり下手くそでした。だからもう疲れて限界でした。そのあとバーコードをしました。はじめにバーコードの練習をしました。そのあとお客さんが来て、やりました。感じたことは、ちょっぴり恥ずかしかったということです。終わった瞬間よかったという気持ちとさわやかという気持ちになりました。ディサービスは、お茶とお菓子をおじいちゃんとおばあちゃんに配る仕事をしました。お茶を運ぶのにたくさんあって、バランスがむずかしかったです。やはり自分の中では、バランス感覚を身につけてがんばることが大事と思いました。やって、終わったときに図書館と同じでさわやかな気持ちでした。

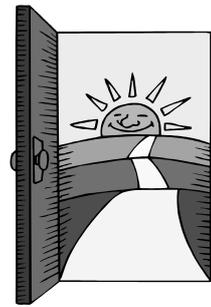
(扇町公園で水やり)



○保護者の感想

- ・ 夏休み後半に詰めたハードスケジュールで体験をしました。時期的に本人が不調の時だったので、今回は無理があったかな？という不安もありましたが、ボランティアさんにうまく付き添って頂いたので、なんとか無事に終えることができました。図書館では声を上げてしまい、図書館利用者のおじいさんに注意されたそうですが…(笑)。学校でも組み立てや数を数える等の作業実習を体験していましたし、今回、ほうぷではもう少しレベルアップした体験ではありましたが、少し「しごと」をイメージできるようになりだしたかな？というところです。将来的に「仕事」や「働く」ということへの理解をしていけたらいいなあと思います。
- ・ 高校2年生ともなると、町中でアルバイトをしている同級生に出くわすことがあります。回転寿司、スーパーのレジ、お弁当屋さん、菓屋さん…。会うと娘はビックリした顔をして、その後はニッコリ、同級生の子が働く姿に興味ぶかげに見ています。そんなこともあり、『今日はお仕事よ』の言葉がけで、働きに行くという意識はすごく見えたと思います。とても頑張っていたとサポーターさんから聞き、とても嬉しかったです。サポートして下さった時も、写真やレポートに詳細に報告して下さり、毎回とても楽しみでした。写真の中の娘は、別人のような真剣な顔つきの時もあり感動でした。家でも、家事を少しずつ出来ることを増やすように意識するようになり、いい刺激だったと思います。娘が働ける場所なんてあるのかな、何が向いているのかな、働くために働く人が必要になるのはそれでいいのかな？とか、いろいろ考えてましたが、今回の体験で、親がはじめから否定的では前にすすめないと痛感しました。

- ・ 最初、馬の大好きな息子、「好きすぎて、『仕事』にならないのでは」と不安がありました。でも、馬舎の掃除、草運び、えさやり、手入れ、ひき馬など、いろんなことに挑戦させていただき、そして、一緒にサポートをしてくださり、どの場面の顔もキラキラしていました。休憩も返上して働いていたと聞き、とても驚きました。すごく楽しかったのだらうと思います。そして、楽しく仕事ができるように接していただいたからだと思います。本当にいい経験をさせていただけたと感謝の気持ちでいっぱいです。余談になりますが、息子は、高校の掃除当番をちゃんとしていませんでした。といっても、小中学校の時はしていたのですが。高校に入学して、掃除をサボりまくっていました。しかし、高校の先生がしごと体験の写真を見られ、衝撃と感動を受けられました。そして、息子も掃除ができるのだとわかってくださり、今では、自分でホウキを取りに行ってしっかり掃除当番をするようになりました。
- ・ 最初、旭区役所でのチラシのセットの仕事。マイペースでやり終えたらしく初回としてはスムーズな滑り出しだったようです。ところが、8月下旬、扇町公園の清掃補助の仕事の前に、思春期+反抗期に突入!?!で、扇町公園までたどり着けるのだろうかというほどの状態で、ハラハラドキドキで帰りを待つ2日間でした。しかも、公園での仕事は清掃補助。小さい頃から「外で落ちているものを拾ってはいけない」と教えてきたのに…と、納得いかないのではないかと心配した通り、初日は促されて1つ2つゴミを拾ったものの結局座り込んでしまったようです。でも2日目は、初回よりもやるべきことがわかっている分だけ表情は明るかったとのこと。ただやはり積極的にゴミを拾うことはなかったようです。本人にしっかりと「仕事に行く」という気持ちがあったからこそ早起き、暑さ、大嫌いな鳩など、苦手なことがいっぱいの状況の中、最後まで頑張れたのではないかと思います。
- ・ まだまだ先のこととと思っていた「しごと」をするということが、いまやそんなに先のことではなくなり…、娘にとって「しごと」をするということ、「しごと」に取り組むってということにどういう感覚を持っているのかと（きっと無いよね、なんて内心軽んじていました、ゴメンネ）わからずにいました。どの体験でも、いい意味でこちらの心配を裏切ってくれたようで、娘の新たな一面を見せてもらえた貴重な時間になりました。たくさんの出来ないことを後ろ向きに考えないで、いろいろな体験やチャレンジをすることで、新たな可能性も見つかるんじゃないかな、という希望になったと感じました。楽しかったかどうかはわかりませんが、人生楽しいことだけをすればいいのではないので、そういうことも学んで行って欲しいと思います。
- ・ 娘に話を聞きました。3カ月も4カ月も前のことなのに、よく覚えているなあと感心しました。体験を通した言葉は記憶されるのだと驚きました。中学生で障害児で、そんな娘が仕事体験するってどんな意味があるのだらうと思いつつ、参加を決めました。図書館の仕事につけたらいいけれど、現実には厳しいなあ。お年寄りにサービスする仕事も向いていると思うけど、就職できるの?なんかコネをつけられるか?いやいや、そんな甘いわけがない。今回、感想を聞くことで、仕事体験プログラムは、今の娘にとつ



て大切な体験になっていたのだと気づきました。子どもという存在は必ず未来を目指してここにいます。娘は娘の中で大人の自分をイメージしながら仕事をしたと思います。中学生の今を生きる娘にとって、貴重な体験だったとわかりました。

- ・ 我が子が、「しごと」を楽しめると分かって良かったです。
- ・ 「できる・できない」にかかわらず、いろんなチャレンジができて良かったです。
- ・ 仕事体験にかかわってくださった方々に、たとえ障害があっても本人には働く意欲・働くことの大切さの意識があることに気づいてもらえたと思います。

(2)しごと体験報告&交流会

日 時：2011年12月23日(金・祝) 10:00~12:00

会 場：城北市民学習センター 研修室3

参加者：子ども10名、おとな10名、

チャレンジ事業運営委員(自立生活センター・旭区社協など)4名、

ほうぷスタッフ2名、ボランティア2名、

大阪市社会福祉研修・情報センター「地域福祉推進リーダー養成塾」受講者2名&職員
しごと体験をした中高生が、それぞれ、スライドを見ながら報告をしてくれました。自分で説明する子ども、ニコニコして写真を見ながらサポーターの説明を聞いている子ども、写真を前に踊る子ども、皆ちよっぴり誇らしげに見えました。保護者をはじめ、参加者全員で感想を共有しました。また、受け入れ先の方々の感想文を配布しました。

その後、クリスマスプレゼント交換をして、楽しく交流しました。



<参加者の感想やアンケートから>

○良かった点

- ・ 役立つ情報が得られた 2人
- ・ 日頃の活動に役立った 2人
- ・ スキルアップにつながった 1人
- ・ 情報交換が図られた 1人
- ・ 「元気」になれた 4人
- ・ 他の参加者との交流がもてた 3人
- ・ 障害児の社会参加につながると思った 5人
- ・ 障害児の自立に向けた支援につながると思った 5人

○感想

- ・ 障害のあるなしを超えて、仕事とは何か、働くとはどういうことかについて、深く考えさせられました。
- ・ 改めて振り返りができたことと、他の子どもの仕事のようすが見られて良かったです。
- ・ 西成の「プレジョブ交流会」ともつながったら面白いかなと思いました。
- ・ みんな、楽しそうで良かったです(写真)。また、次回があることを期待しています。



- ・ さまざまな職種を探してもらい、一人ひとりが、いい表情をして、仕事をしているようすを見ることができて楽しかったです。そして、休みの日に、納得できない外出を拒否する息子が、今朝、「ほうぷのお仕事のおはなし」というカードを見て、自分の意志で出て来ることができたことが嬉しかったです。
- ・ 子ども達の一生懸命さが伝わり、とても良かったです。写真の中でのようすでしたが、楽しさと難しさがあつたようで、子ども達の感想も聞くことができ、今後の子ども達の成長も楽しみです。ありがとうございました。
- ・ もし、次回があれば、本人も選べるように仕事と内容(具体的なやること)を簡単な言葉で表した一覧などがあればいいと思います。親が選ぶ仕事、本人が得意な仕事、本人がしたい仕事、それぞれ違うと思うので。

チャレンジ体験Ⅲ・クッキング

買い物&クッキング



日時：2011年11月23日（水・祝）11：00～15：00

会場：旭区民センター 調理実習室

参加者：中高生8名、学生ボランティア15名、
社会人ボランティア2名、ほうぷスタッフ2名

9月に予定していたクッキングは台風接近で延期にしましたが、参加者やボランティアの日程がなかなか合わず、11月まで持ち越してしまいました。【お弁当に何入れる？】でメニューを決めてから長い期間が経って、「子ども達はお弁当のメニューを覚えているかしら？」と心配しながらの開催でした。しかし、子ども達は、写真を見るとすぐに思い出し、買い物・調理とスムーズに活動をしました。今回も大工大ボランティア教育研究会の学生さんの進行で、楽しいクッキングを行うことができました。学生ボランティアが増え、サポーターに余裕ができたので、今回は写真撮影だけでなくビデオ撮影もできました。子どもとボランティアの活躍で、「仕事」のなくなったスタッフは味見係となりました。

活動は4グループに分かれて行いました。【大食い男子チーム】は、買い物も調理もスピーディーで、最後はみんなの調理が終わるのをジッと我慢して待っていました。【豪華弁当女子チーム】は、料理本にも載せたいほどのできあがりで、満足そうな子どもの隣でサポーターはヘトヘト。【しっかり者女子チーム】は「～したい」がっぱいの2人で、「やった～、できたー」の連発でした。【にぎやか高校生チーム】はいろんな工夫をして調理しながら、他のグループに立ち寄ってみんなのつながり作りをしてくれました。

<ボランティアの感想から>

- ・ 自己主張が増していて、とても成長を感じた。
- ・ 少しずつ成長している子ども達に会えてうれしかった。
- ・ すごく日にちが空いてしまったので、とても心配していましたが、みんな積極的に動いてくれて、去年より、数段ステップアップしたクッキングになったと思う。



- ・ 3回、クッキングに参加して、3回ともAくんを担当してきた。1回目は、ほぼ調理に参加せず、調理室から飛び出していたが、3回目の今日はずっと部屋にいてくれるだけではなく、調理に集中してくれた。成長が感じられ嬉しかった。
- ・ Bさんが率先して動いてくれてとても豪華なお弁当ができた。二人で仲良く交代でかき混ぜてとっても楽しく調理できた。まさかあれだけの種類を作れるとは思ってもみなかったのが、満足です。
- ・ 買い物をしている時から買うものをカートに入れてくれたり、コロッケを作る時、数字の形に丸めたりして、Cさんが楽しそうにしているのを見て、嬉しく思った。今日のクッキングは私自身もすごく楽しんできました。
- ・ 男子陣だったが、Dくんはさすがベテランというスピードで、Eくんは野菜を切るのが上手でとても器用だった。お弁当作り、みんなが楽しめたので大成功だった。
- ・ 初めて参加して、皆と協力してクッキングできるか不安な部分もあったが、一緒になった班の人たちがとても明るくて楽しい人達だったので、充実した一日になった。障害をもつ人とかかわることが少なく、どうかかわっていけばよいかと戸惑うこともあったが、楽しんで話をしたり協力したりできた。とても良い経験をすることができた。
- ・ 子ども達が自分で「やりたい！」と思えるものを積極的に取り組むことができ、子ども達も笑顔でとても満足そうだった。今日一日だけでも自分でできることが増えている姿を見ることができ良かった。
- ・ みんな仲良くクッキングができたと感じた。それが一番！今回は子ども達と一緒に振り返ることができた（保護者にも報告することができた）ので、良かった。



<保護者の感想から>

- ・ 自分で作る楽しさを同世代の人たちと作ることで、充分楽しめたと思う。写真を撮って作りたいもの、作ったものが目で見てわかりやすかったことがとても良かった。
- ・ 黒板にスケジュールがあるのを本人が教えてくれた。「ちゃんと書いてくれているから」と言っていた。見通しが立てられて良いと思う。
- ・ おにぎりを作る器具を持参するのを忘れて困っている私に、ボランティアのMさんが「じゃあ、ラップを使いますね」とサラッと行ってくれました。子どもにとっても、器具を使うのではなく、自分の手で直接握った方が分かりやすかったと思いますし、Mさんのとっさの対応に感激しました。でき上がりの



写真があったことで、お弁当の話も膨らみとてもよかった。

- ・「お弁当」を作る企画が珍しくて良かった。本当にその子の希望したその子だけのオリジナルというところも他では体験したことのない企画だと思う。
- ・サポートも作るのも大変な内容だったと思う。でも、大変だっただけ強く印象にもなり、いい思い出になるのでは…とほほえましく感じた。イメージして作るということを具体的に助けてもらい達成する体験は自信につながると思う。
- ・ボランティアが子どもと同じ目線に立ってくれて一緒に楽しみながら弁当を作ってくれたのがとても良かった。子どもも嬉しそうに写真を見せてくれていた。弁当作りといえば、なかなか時間がなく全て親が作ってしまっていたが、こういうことも時間の有効利用だと思った。
- ・クッキングの企画は連続して行われており、大工大のボラ研の人中心にずっとサポーターとしてかかわってくれる人たちがいます。1回目より2回目、2回目より3回目と、回を重ねるごとに信頼関係が増し、そのことによってできることも増えたように思う。そして、成長、新発見をサポーターの人から聞き、一緒に共感することが本当にうれしかったです。
- ・メニュー決めから期間が開いて、「どうかな～」と心配しましたが、本人は何日か前から「クッキング楽しみ～」と繰り返し言っていました。当日、ボランティアに会った瞬間に「よお！久しぶり～！」と声をかけ、肩を組み、調理室にすんなり入っていき、すっかり馴染んでいる様子が頼もしかった。お弁当も予想以上のできで驚いた。ボランティアのアドバイスのおかげで、メニューも色取りもバランス良くできていた。本人も楽しかったと言っていた。クッキング自体もそうですが、ボランティアとの触れ合いもいい刺激になっていると思う。

保護者研修会(チャレンジ体験Ⅲ)

日 時：2011年11月23日(水・祝) 11:00~15:00

会 場：城北市民学習センター 研修室1

参加者：障害児の保護者17名、ボランティア2名、ほうびスタッフ4名

クッキングと同じ会場が予約できなかったため、慌ただしいスタートになりました。でも、延期になったのが幸いしたのか、参加者が増え、小中学生の保護者がたくさん参加してくださいました。3人の講師にお話を伺い、昼食を取りながら自己紹介をして、その後、高校生の保護者や講師と情報交換や意見交換を行いました。学校生活のこと、進路のこと、自立のこと、さまざまな立場の保護者からご意見をいただき、多くのことを話し合うことができました。どのような学校選択をしても、学校を出た先に「特別支援社会」などはなくて、その社会で暮らしていくことを考えながら、今の学校生活を送っていくことが必要だと考えさせられました。そして、学力や就労能力にとらわれ過ぎ



て、子どもの「存在そのものの尊さ」を見失わないようにしなければと感じました。親の考える「幸せのものさし」で我が子の人生を決めてしまわないようにと、改めて思いました。スタッフにとっても学びの場となりました。それぞれの子どもに、そして、保護者に、それぞれの自立があると思います。今回の研修会が、我が子の「自立」や自分自身の「自立」について考える機会になっていたら幸いです。

<講師のお話から>

はじめに、知的障害をもつ兄弟お二人のお母さん、Aさんがお話してくださいました。「兄は、B高校の自立支援コースを受検しましたが、不合格となり、支援学校に進学しました。弟は、中学校に通う途中にある高校を『ここに行く』と思い進路と考えていたようで、その高校を受検しましたが、不合格になりました。支援学校高等部に入学しましたが、なんだか楽しくなさそうでした。そこで、11月頃に再受検を決めました。かなり多くの高校で定員割れがあり、受検した高校でも定員が割れて合格しました。本人が楽しそうで、とても充実した生活を送っているように見えます。」

次に、広汎性発達障害をもつ男子高校生のお母さん、Cさんが話してくださいました。「中学を卒業したら支援学校に行くものだと思い込んでいて見学に行きました。本人はイメージが違っていらしく、6月頃から自立支援コースや共生推進教室について調べ始めました。11、12月に見学に行きました。その頃、先輩の保護者に会い、初めて普通高校も選択肢にあることを知りました。本人が共生推進教室のあるD高校を希望したので受検しました。現在、週1回、たまがわ高等支援学校に清掃や販売などの訓練に行き、共生推進の生徒が集まって作業を指導してもらいます。ふだんはD高校の生徒と変わりません。部活も頑張っています。高校見学をされると良いと思います。見ないとわからないことがたくさんありました。」

最後に、知的障害をもつ24歳の男性のお母さん、Eさんがお話してくださいました。共生推進教室や自立支援コースがなく、まだ研究校の取り組みをしていた時代でした。Eさんは共働きをされていたので、息子さんを生まれて5カ月から保育所に預けられたそうです。「小中学校も地域の学校に通いました。中学卒業後の進路を考えたとき、本人が『高校に行く』というので、受検を考えました。当時、知的障害の生徒がなぜ高校へ行くのか、中学の先生に説明をするのが大変でした。それでも理解してくれる先生がいてくれ、高校に見学に行って受検しましたが、不合格でした。そこで、専修高等学校を受けました。作文と面接がテストでした。専修学校では、友だちもたくさんでき、楽しい高校生活を送ることができました。卒業後の進路は、新聞の求人広告で見つけたところに面接に行かせました。スーツにネクタイを締めて行かせるけど、落ちると気持ちが落ち込んでしんどかったです。今、お寿司屋さんで皿洗いの仕事をしています。短時間ですが、一般の就労です。しんどいと言いつつも、頑張っている様子も伺えます。」



<参加者の感想から>

- ・一人では心細いことも多いと思う。せっかく縁あって出会えたので、これからもつながっていったらいいなあと思う。
- ・うちは高校受験はもう過ぎたが、小中学生の保護者の方がとても熱心に質問されていて、感心した。
- ・みなさん、いろいろな悩みを持ちながらも明るいので、とても元気になれた。
- ・障害児でも、普通高校や定時制高校に通っている子どもが多いのに驚いた。とても魅力を感じた。
- ・高校の話や、いろんな学校に足を運んで回ってみるとか、教えていただいて良かった。先輩のお母さんの話が聞けて良かった。
- ・中学に向けて悩んでいたが、たくさんの方が地域に行かれていますので、自信が持てた。
- ・しっかりと考えておられるお母さんが多いと感心した。横のつながり、大事にして欲しい。
- ・またこのような会があれば参加したいと思った。皆さんの話を聞いて嬉しくなった。
- ・障害児のお母さん達が、子どもの想いを考えながら、試行錯誤しながら、楽しく生きていると感じた。自分も頑張らなければと思った。
- ・有意義な時間を過ごした。皆さんからパワーをいただいた。これからも子どもと向き合いながら、一つずつ乗り越えていきたいと思う。
- ・何日も一人で考えて解法の見つからなかったことが、今日の数時間で解法がしぼれたように感じれた。
- ・人数が多かったが、全員で一つの話で話ができただけが良かった。
- ・今、中学校生活を少しでも有意義に楽しんでもらえるよう、そのために今後、学校に対して動いていこうと前向きな気持ちになれた。



年末年始、ヘルパーは休み、夫は仕事、娘はパワー全開で、私はクタクタ。恒例行事のようにになっている正月のギックリ腰を防止しようと(苦笑)、思いきって(!?) 年末の大掃除を止めました。「埃では死なない」と友人に言われましたが…、キッパリあきらめるのに勇気が要りました。掃除は日々しておくものですね(反省!)。

「ときめく」かどうかで判断し、モノを捨てる片づけ術が流行っているとか。家の中を見渡すと、何とときめかないモノが多いことか…。

今年の目標は、身辺整理(?) にします!

